



審査結果報告書

平成 28 年 2 月 4 日

主査 氏名 三枝 信 

副査 氏名 岡本 浩嗣 

副査 氏名 天羽 康之 

副査 氏名 早川 和重 

1. 申請者氏名 : DM12010 金子 志保

2. 論文テーマ :

Incremental expression of 14-3-3 protein beta/alpha in urine is correlated with advanced stage and poor survival in patient with clear cell renal cell carcinoma.

(尿中 14-3-3 protein beta/alpha の腎細胞癌マーカーとしての意義と測定法の確立)

3. 論文審査結果 :

申請者のグループは、プロテオミクス解析法で腎細胞癌 (RCC) の新規腫瘍マーカー、14-3-3 protein beta/alpha を同定した。本研究は、この分子の ELISA 法による測定法を確立し、RCC 症例での尿中発現と臨床病理学的所見の関連性について検討した。健常人および腎血管筋脂肪腫 (AML) 症例を対象とした。その結果、尿中 14-3-3 protein beta/alpha は、健常人、AML 患者と比して RCC 患者で有意に高値を示した。RCC 患者での尿中 14-3-3 protein beta/alpha 高値は、病理病期、リンパ節転移、遠隔転移と有意に相関した。小径の RCC でも尿中 14-3-3 protein beta/alpha は健常者や AML 患者より有意に高値であった。RCC 患者における Kaplan-Meier 法における腺損分析では、中央値より高値群で有意に癌特異生存率の低下を認めた。以上から、申請者は、尿中 14-3-3 protein beta/alpha は小径腎腫瘍での良悪性の鑑別を含め、RCC の診断、予後マーカーとなる可能性がある」と結論付けた。

その後の質疑応答で、申請者は審査員の様々な質問に対し、1つ1つ丁寧に回答していた。審査員は、学位論文の内容の高さ、質疑応答の的確さから、医学博士の学位に十分値する判断した。